

砂川市協働のまちづくり指針 市民説明会

意見・アンケート集約結果

北海道 砂川市

「砂川市協働のまちづくり指針」市民説明会 意見・アンケート集約結果

11月26日から28日までに実施した、市民説明会で得られた意見等について、次のとおり集約しました。

1 目的

協働のまちづくり指針の策定にあたり、多くの市民の皆さんに協働の考え方や内容を理解していただくとともに、素案に対する意見等を伺うために市民説明会を開催しました。

2 実施結果

開催日	会場	参加者数	発言意見の数(述べ)	アンケート提出人数	アンケート意見の数(述べ)
11月26日(月)	北地区コミュニティセンター	37人	4	21人	40
11月27日(火)	南地区コミュニティセンター	29人	5	18人	40
11月28日(水)	地域交流センター	77人	3	30人	63
計		143人	12	69人	143

3 意見及びアンケートの集約結果

別紙記載のとおり

◆ 発言意見要旨

【協働を進めるための施策展開について】

(1 啓発活動の推進)

- ・市がこれほどまでに熱心に取り組んでいる協働のまちづくりについて、地道ではあるが、啓蒙活動を継続的にあらゆる面で、広報紙等を活用しながらPRして、その必要性を訴えていくことが大事ではないか。

(2 人材育成の推進)

- ・教育委員会から、移動公民館講座を平成25年度実施したいという話があった。本当に良い企画で、北地区コミュニティセンターの方からも是非やりたいという申し入れがあった。是非実現できるようにご配慮をお願いしたい。

(3 市民と市の相互理解の推進)

- ・北地区コミュニティセンターでは、地域で福祉、文化、芸術の向上を目指して、平成17年より空知太ふれあいコンサート、平成20年から手作り文化祭を開催しているが、市の関係者は一度も来ていない。協働のまちづくりを進めるのであれば、市の方が見に来てもいいのではないか。
- ・私の住んでいる町内会には、市の職員やOBが非常に多い。しかし、市役所を退職された方々は会合等にも出席せず、役員も引き受けてもらえない。全く町内会に関心がないというのは非常に残念。少しでも町内会のことを考えていただき、現役の職員の皆さんに少しでも町内会に協力していただくよう指導をお願いしたい。
- ・指針の「市の役割」と「施策展開」の中で、まちづくりへ参画しやすい機会づくりを進めると明記されているが、具体的な企画等があれば聞かせてほしい。
- ・平成23年度から第6期総合計画が実施されているが、進捗状況について報告も兼ねて、意見を聞くような場を設けていただきたい。
- ・協働のまちづくりを市民と一緒に進めていく。市民の意見を聞く場も設けていきたい。ということだが、団体等に一切属していない一般市民もいるので、少なくとも年に1回くらいは町内会単位くらいで、意見を聞く場を設けていただきたい。
- ・指針の施策展開の中に、「各種団体との意見交換会の実施」とあるが、今後、各種団体をいくつかのグループに分けて、年に1回でも意見を聴く場やお互いに協議する場を設けていただきたい。
- ・市長が就任早々から、大変熱心にあらゆる団体の会合に顔を出すよう努力されているのを知っている。管理職の皆さん方も、積極的に参加し意見交換をして、市民との接点を作りだしていただきたい。

【その他】

- ・北地区コミュニティセンターは平成14年に開館されて10年になる。平成19年までは年間の利用者が1万2千人以上いたが、平成20年以降は利用者が年間7千人から9千人に減少し、運営上、将来問題が発生するのではないかと危惧している。
- ・市として空知太地域を将来的にどのようにしようと考えているのか。総合計画の中で今後、将来

像を出せるものであれば、提示した方が地域の皆さんが分かりやすいのではないかと。

- ・指針の中の「協働が必要とされる背景」の中に「少子化や高齢化により人口減少が進み」とあるが、だからこそ、例えば、市民の健康づくり、体力づくり等の項目も必要ではないかと。

◆ アンケート意見等

1 「砂川市協働のまちづくり指針」について

【総体について】

- ・素晴らしい理念なので、具現化して進めてほしい。
- ・砂川愛がキーポイントである。
- ・指針なのでこれで良いと思います。
- ・基本的に今のイメージで良いのではないか。
- ・「協働」と聞くと、それぞれの主体が何をどのようにすればいいのか分からなかった。今回の指針は、誰が何をすべきか整理されていて良かったと思う。
- ・全体的にぼんやりしている。
- ・市民一人ひとりの意識を底上げするには、もう少し具体的なプランが必要だと思います。
- ・指針の表現が遠慮したものになっているため、主体と客体が不明瞭となっています。明確な表現を期待します。
- ・協働という言葉が聞きなれず理解しづらかった。
- ・基本は、自分（地域）の暮らしをどうよくするか解決の方法だと思う。行政でできないから、自分たちがやらねばという意識がどこまで市民に浸透するのか。それをどうやっていくのか。
- ・今後のプラン、スケジュール。各団体は意見を吸い上げているのか。指針はどう活用すればいいのか？
- ・全体スケジュールの説明が必要だと思います。
- ・「まちづくり」とは一体何ですか？ 例えば何をしてほしいのか、具体例を挙げてほしい。
- ・協働の事例を見ても、これまで協働の形を持っていたものがたくさんあるが、このような指針にすることで、何を目的としているのだろうか？
- ・協働のまちづくりの指針や条例などが制定されることで、市民が縛られることになりはしないか？ と気になるところです。

【協働の原則について】

（1 自主性・主体性の尊重）

- ・若い世代が参画できるようにすることが大切であるが、現在の若い世代は、生きていくのが精一杯であるような人が多く、そこまでの余裕がある人は少ないと思われる。今後、景気の回復等状況の変化が不可欠であると思う。

（2 信頼関係を築く）

- ・信頼関係を築くことは大事だと思うが、大変なことだと思う。時間をかけ、ゆっくりと築けていけばいいと思う。
- ・信頼関係を築く事が一番重要かなと思います。
- ・一人ひとりが自意識の目覚めが必用であり、信頼が何よりも大事。

（3 対等な関係の尊重）

- ・対等な関係で信頼関係を築いていくことが、行政と市民の間でできるのか。

【協働の担い手】

- ・ボランティアに頼るものは、長続きしないとされます。市は、ボランティアありきという意識を捨てることも必要ですし、市民も、税金を払っているから市が1から10まで何でもしてくれるという意識を捨てるが必要だと思います。

【市民と市の協働の事例】

- ・市だけでは出来ないこと、市民、民間だけでは出来ないことは多数あると思います。それらを達成するためにも、積極的な協働を進め、市の発展を目指してほしい。

【市民と市の役割について】

(1 市民の役割)

- ・「まちづくりのために何ができるのか」と考えることができる市民を育てていくことが、一番難しいと思います。
- ・市民と市という立場だが、市には個々の市民がいるわけで、市民の一員としての自覚を持って、市民として協働の企画に参加されることを望みます。

(2 町内会などの地縁による団体の役割)

- ・町内会役員の「なり手」が少なく苦勞している。市でこ入れはできないか。
- ・町内会への加入を勧めているが、加入したからといって、まちづくりが進むわけではない。全ての町内会へ「資源回収をやってほしい」とか、「新年会を行ってほしい」とか、ある程度、活動を統一した方が良いのではないかと。何も活動していない町内会へ加入しても意味がない。

(5 市の役割)

- ・市政について市民が知らないことが多いことから、例えば、市民アンケートを行うなど、市民の考えを市がもっと知ることが大切である。また、私は今年、町内会活動を行ったが、もっと市と様々な部分で連携を深めても良いのではないかと思った。
- ・市職員の町内会への参加が少ない。(町内会行事等)
- ・市の職員に町内会活動への参画を進めているというが、市のOBにはそれが及ばないか。
- ・市の役割、当面は啓発活動に力点を、広報紙の利用等。
- ・より良いまちづくり、市民、町内会のボランティア、協力すべきと申しますが、市役所、現役また、OBが町内会に協力が無い。残念である。

【協働を進めるための施策展開について】

(1 啓発活動の推進)

- ・今回初めて聞いた説明を受けただけで、内容的に理解できない部分が多く、これからも、今回のような説明会を開くか、時間をかけていく必要があるのではないかと思う。
- ・情報発信の方法を考え、いろいろな情報が各市民まで伝わるようにしてほしい。
- ・住みやすい、環境の良いまちづくりを目指すために、今の砂川の現況の良い所、悪い所を明確にして、現状を公開して、そこからスタートかと思っています。

- ・内容は難しいものであるが、小学生、中学生などへの説明会の様なものがあってもよいのではないか。
- ・若い世代への周知は、一番重要なところだと思います。
- ・市民に理解及び、浸透を図ることが優先課題ですので、若年層を含めての啓蒙活動も継続性を求める意味で有効では。広がりのある市民会議等の活用展開の検討はいかがですか。
- ・砂川市では、ある程度の「協働のまちづくり」は、既に行っている状況です。今後は市民の意識を高めるPRが必要と感じます。
- ・高齢化が進んでいる現状で、これまで協働の活動をしてきている者にとっては、できれば若者が協働に対する意識を持ってもらいたいと願う。
- ・良く理解できました。これから具体的なものができてくるとは期待しています。特に市民啓発活動は大切と考えています。
- ・一部に協働を全く理解していない者がいる。協働意識がなさすぎる。今後、啓発活動を十分に行い、不安要素を解消しなければならない。
- ・協働の主体の市、市民、事業者は対等であることから、市民、事業者への理解を深めてもらうためにも、様々な形での啓蒙活動を今後も続けていくことが重要だと思います。
- ・作成した指針については、息長く、根気よく啓発活動を進める必要がある。

(2 人材育成の推進)

- ・若い世代が市外に流出してしまっていることから、例えば、市内の働き場の確保など、根本的な地盤の整備が必要であると思う。
- ・精神？ 市民の質の向上。人材育成こそが一番必要なのかもと感じます。

(3 市民と市の相互理解の推進)

- ・手軽なものから、重要なものまで、幅広く市民が参画できるような仕組みを作ることが重要だと思います。
- ・市民と市の相互理解の推進が大切だと思った。市民（特に若者）のまちづくりへの参加が、市の活性化へとつながるものであると感じた。そのために、若者が積極的に参加できるような体制づくりが必要であると思う。
- ・現在、地域活動やボランティア活動に携わっている方々は、一人で複数の活動に参加している状態が見受けられる。これから、さらにまちづくりを進めていくためには、今まで、参加してこなかった方や若い方を引っ張り出すことが大切だと思う。市民や地域で、まだまだ力が埋まっていると思うので。
- ・地域との関わりが薄くなってきている現代において、まちづくりに参加する意識の向上は非常に難しいと思う。まちづくりを考える前に町内会や近所付き合いなどの地域コミュニティの構築など、少しずつ考えていった方が良く思う。
- ・子どももいない、高齢者も身近にいない、町内会にも加入していない単身者が、まちづくりにどう参加したらいいのか、難しいと思う。

(4 体制づくりと支援策の推進)

- ・まちづくりを進める団体は、すでに目標や目的を持って活動を進められていると思います。具体の施策として求められるとすれば、市民活動に対する金銭的な支援も一方では大事だと思います。また、具体的な施策も必要だと思います。

- ・実施にあたっては無一文では動かない。一定の財源の裏付けが必要ではないかと思うし、そうあってほしい。
- ・行政もまちづくり団体（個人）も、正直に困っていることを公示する。協働できる人（団体）が手を上げやすい仕組みづくり。

（5 取り組みの評価や見直しの推進）

- ・取り組みの評価、見直しは是非していただきたいと思います。
財源の面、人員の面から考えても、この小さなまちで無理なく必要なことをしていかなければ、市民側としては疲れてしまうので、見直しは大切かと思います。

（その他の施策案）

- ・市と市民の協働は分かるが、市民と市民（NPO等）の協働等について検討してはどうか。
- ・平成21年、男女が共に社会参画できる環境の整備がされていると感じる市民の割合10.8%は少なすぎるのではないか。多くなるよう努力が必要ではないか。
- ・様々な協働の事例はありますが、これはこれとして、全ての物事を一度に進めるのではなく、一歩ずつ前進させることが大切かと思います。高齢者の見守りの仕組みが出来上がる今、次は子供たち（教育）に絞って進めてはいかかでしょうか。具体的には、様々な企業の社員、商店等事業主、農業者等々から講師を募り、小・中学校で授業を行い、社会の仕組みや色々な仕事の内容を説明することで、子供達にいい刺激、きっかけ、進路を考える機会になるのではと思います。保護者にとって学校教育のあり方も考える機会にもなるかと思えますし、地域で子どもの教育を支える仕組みが徐々にできればと思っています。（催事と違い、間があまり空かないので良いかと思いました。）

【その他の意見・感想】

- ・市民の一員として、自分のできることから、まちづくりのために努力していこうと思います。
- ・老人二人で暮らしている者です。いろいろとお話を聞きまして、安心しております。どうぞよろしく願いいたします。
- ・砂川は派手ではないけど、着実に一歩ずつ進んでいると思う。働く場所が増えるといいですね。
- ・子供から高齢者まで、住んで良かったと思えるまちづくりのために、市民と市が、手を取りあって頑張りましょう。
- ・我が郷土には、市民を巻き込んだ行政運営は必須条件ですので、是非根気よく取り組んでください。担当の皆さん頑張ってください。
- ・地域のニーズが多様化しているからこそ、様々な考え方を持つ市民、企業等が協力することが大切だと感じました。また、そのような協働のまちづくりへの関わり方は、様々な形があるのだと感じました。
- ・本日の説明会で、これからの砂川市のまちづくりの方向として、協働が必要だということがよく分かった。
- ・指針に基づいて、できるところから取り組みを進めていきたい。
- ・町内会として協力できるものは、積極的に協力させていただきます。
- ・今回は、協働のまちづくりについての説明会を聞かせていただきありがとうございます。今回の内容で「互いに同じ立場に立って、同じ目的に進んでいく」ことが協働であるという説明を受け、

私が思っている「協働」のイメージが良く、崩れました。

- ・町内の各々の現状を見て、担当課の活動を求めます。例として、砂川JRの駅前の商店の状況、砂川の玄関である「まちなか」であるのですが、空き店舗や道路周囲が問題。夏は雑草とごみの飛散、冬は雪の山であり、歩行困難です。歩道の除雪等、協働の考えの基に進めてほしい。
- ・昔のように、町内会対抗の運動会や市民おどりなどの、砂川市を感じることができるようなイベントの開催について検討してほしい。
- ・市長はどこか参考にしている自治体があるのでしょうか。協働が成功している自治体があるなら教えてほしい。

2 協働のまちづくりについて

【市との連携・協力について】

(意見や情報の交換について)

- ・様々な場面において、市と市民の積極的な交流で多種多様な意見を取入れて行けばよいと思う。
- ・行政担当者は大変でしょうが、多くの団体等の集会などに参加し、市の考え方(方針等への)理解と協力を求めていくことが大切と考える。意見の交換など。
- ・市民からの要望等を柔軟な対応で受け止められるか重要であると思います。
- ・砂川市のホームページの利用率は高いのでしょうか？また、日常生活等での質問・意見はホームページへの書き込みはOKでしょうか？

(市職員の対応について)

- ・町内会主催の新年会、盆踊り大会等の行事に対し、市長または、市役所サイドからの出席をお願いしたい。
- ・市の職員。住民の意識をもっともっと向上させる必要がある。
- ・最初は市とのパイプ役として、各町内会に市の職員を町内会役員として送り込んではいかがか。
- ・この活動を始めるためにも、人材が必要かと思います。これは、例としてですが、市の職員が地域の町内会役員として、軌道に乗るまでの期間でも、地域とタッグことはどうでしょう。今も地域に入って、頑張ってくださいている方もいますが、忙しくて力を出し切れない場合もあり、地域の役員を引き受ける職員には、配慮をしてあげていただければと思います。
- ・市の職員であっても一市民であります。市立病院を含めると700名近い市の職員です。そのため業務以外(仕事)の時間について、各種市内で実施されているイベントや事業についての参加を強く求めます。
- ・市職員の意識改革が必要と考えます。
- ・職員個人の資質を高めるうえでも、一市民であるという意識を持って生活してほしい。生活者の一人としての活動を望みます。(町内会の参加など)
- ・NPO法人ゆうの活動等を見ても、市の企業の方は本当に頑張っています。市の職員の方にも手伝ってもらいたいです。
- ・市長、市の方がサークル等を回るのは、無理なことと思いますので、こういう市民説明会、意見交換会的なものを開催して、集まってもらうことを1年に1回するとよいと思います。市長さんが来てくれるのが当たり前と思いだしている方がいるのはおかしいのでは？ 自らが関心を持

って、そういう会場に足を運ぶべきだと思います。

(啓発・広報活動について)

- ・市民ギャラリーは役所に来る人しか利用しないし、ホームページはパソコンを持っている人しか利用しない。啓発活動を進めるために、民間企業を通して、そこで働く人向けに広報活動ができればいいと思う。今回のような説明会の周知などを会社にお願ひする。

(地域等との関わり方について)

- ・市と地域で、老人、子育て世代の交流会など、地域づくりをした方が良い。
- ・市の普段からの積極的な関与が必要。

【地域課題について】

(町内会、地域コミュニティの課題について)

- ・地域の最小単位である町内会がキーポイント。町内会役員の担い手不足はどこも困っている。市の職員が何らかの手伝いができるのが良いと思う。
- ・町内会未加入などの問題も言われるが、町内会で外灯やごみステーションの整備、管理していることも踏まえ、転入時などに説明し、町内会の周知を行ってみても良いのではないかなと思う。アパートの人は町内会に入っていないところもあると聞いたので。
- ・空知太ふれあいコンサートも今年で7回となりましたが、資金がなくなり、今後継続していくことが難しくなるかもしれません。市で助成などはできないものでしょうか。せつかくの文化事業なのでなくなるのは惜しいことです。
- ・各町内会、連携・協力が必要だと思います。
- ・地域コミュニティの再生が必要。
- ・当町内会では、役員を中心として、毎月15日に全戸を対象にして「おかわりありませんか」、「困っていることは」など、「声かけ運動」をしています。声かけ巡回後は、役員会議を設けて情報交流をして、町内会員の困り事はどのようなことがあるか集約しています。役員会議を毎月1回、定期的に開催しているので、住みよい町内会、安心、安全で豊かな地域づくりを目指していきたいと考えています。協働のまちづくりの一環として、役立てることができればと思います。(町内会員に好評なので、継続して実践していきたい。)
- ・協働を掲げる中で、町内会の役割を求められており、市職員も町内会へ積極的に参加するよう市でも推し進めているところですが、町内会そのものが形骸化しているこの現状で、一体何を具体的に求めているのでしょうか。

(少子高齢による課題について)

- ・市として、富平地区全体を今後どのようにしていくのか。農村地区でだんだん高齢化し、後継ぎもいなくなってくる。共同経営、農業法人等をしていく事業等が必要になってくると思うが、何か良い考えがないでしょうか。
- ・富平地区において、高齢者夫婦(80歳以上)がいて、いずれ車の運転ができなくなると思う。その場合、国道12号線のバス乗り場に来るのにハイヤーしかなくなるが、市として何か考えがあるのでしょいか。
- ・高齢化社会が進む中で砂川市として、今何か突発的なことが起きて、一人で生活していけなくなった時に、そういう人の対処又は受け入れるところがあるのでしょうか？あったとしても、なか

なか入れないということも聞いております。どんな施設があつて、どういうところがあるのか知りたいと思いますので、次回お知らせください。

- ・町内会地縁による団体の役割として、担い手として、組織づくりや活動を進めるとあるが、農村部等の高齢化は著しく、活動もままならないと思うが、地域差を埋めるための方策が必要かと思う。
- ・若年層の意識・関心低下。人との関わり減
- ・高齢化により活動参加に制限がある。
- ・近年問題となっている孤立死をなくすため、効果的な政策を。

(課題への対応について)

- ・地域課題も重要ですが、その地域の将来像についてヒアリングしてみてもいかがでしょうか。
- ・各地域で、世代別に地域の課題をさぐり共有化することも良いのではないかと思う。

(その他の課題について)

- ・あかね団地に住んでいます。25年経って、スーパーがなくなり残念です。先の事ですけれども、買い物が大変です。

【協働のまちづくりの進め方・あり方等について】

(啓発・広報活動について)

- ・少子高齢化による今後の行財政を含み、かなりの予測データもあり、市民協力による発想の広がり、経済効果等の現実的な広報活動がより有効と思います。
- ・まずは、しつこくPRすることか。
- ・協働という言葉、ほとんどの人が知らないと思います。一人でも多くの市民に参加希望であればやはり協働の基本的なことを市民に説明する必要があると思います。
- ・スタートしたばかりの協働のまちづくりについて、市民(町内会)として、まだまだ理解不足のところが多いと思うので、今後、事あるごとにPR活動を徹底していただきたい。

(人材育成について)

- ・まちづくりの指針にあるような壮大で綿密な体制を求めているようなのであれば、まず、町内会を含めた協働の対象となるようなコミュニティ(主にそのリーダー、長)に対して、十分な指導、教育を図るべきと考えます。皆で仲良く手を取り合って、この砂川を良くしようとしているのであれば、それは到底、実現不可能な絵空事であり、ある程度の強制力と犠牲を払う覚悟が絶対に必要だと思います。
- ・人材育成が一番重要だと思う。リーダー的な人が引っ張っていければ進んでいくと思う。
- ・ボランティア活動をはじめとして、種々の活動が行われているが、一人が複数の団体を掛け持ちして、特定の人物に委ねられていると思う。広がりを持たせる展開が必要ではないか。

(市民参画や取り組みのあり方について)

- ・若い次代が参加しやすい活動など、少しでも興味を持てるような取り組みが必要だと思う。
- ・市民一人ひとりの意識を向上させるような取り組みが必要かと思います。
- ・市民一人ひとりの積極的な参加、意識高揚が必要だと思う。
- ・市民一人ひとりの参加意欲を高めていくこと。

- ・多くの人が参加可能な運営を図る必要あり。(自主参加)
- ・今後も進むであろう少子高齢化社会を考えると、やはり、まちづくりは行政だけで行うのも限界があり、協働のまちづくりは、大変すばらしいことだと思います。ただ、私もいくつかのイベントや手伝いやNPOにも参加していますが、参加する顔ぶれをみると同じ方ばかりが出ています。これからの協働を進めて行くには、参画しやすい機会づくりが、必要であると思いますし、まちづくりに参画したくても、どのように関わっていけばいいのか、わからない方もいると思いますので、参画しやすい情報等の提供も必要だと思います。
- ・具体的にまちづくりに参加するというのが、どういうことなのか？ 何をすれば、まちづくりに参加したことになるのかということが見えづらい。既存のまちづくりに関連する活動や項目などの集約をし、その集約されたものの中から、市民が選択して取り組めるような仕組みが必要だと思います。自分たちが参加できる、取り組めるまちづくりを進めることにより、協働にもつながると思います。自分達もまちづくりに参加しているという、実感することが大切だと思います。
- ・行事的事業、交流会等、どちらかという人との集まることに重点を置きがちだが、一人でこつこつ行っている活動にも目を向け、例えば、年1回でもその活動に大勢で一緒にするなど、そんなことも考えては。(例) オアシス(パークゴルフ場近辺のインターロッキング)の歩道の草取りや、中央団地近くで歩道の草取りを一人でやっている人がいる。義士祭も女性だけの案も考えては？(全国から募集)
- ・お祭りの、レクリエーション的な事業と、高齢者、子供などに対応しなければならない事業は、市側の関わり方が違うものだと思いますので、それぞれの事業がそれぞれの方の立場をわきまえて、住み分けして、人口に見合った無駄、無理のないものにしていただきたいと思います。
- ・市民として、町内会として具体的に何をすればいいのかご教授願いたい。
- ・基本的には良いことと思いますが、内容、取り組みなどを検討したい。
- ・市だけが突出するのではなく、市民、事業者と歩みを同じくして進めていくことが重要と考えます。そのためにも、少しずつ丁寧な取り組みを進める必要があると思います。
- ・高齢者に対する援助・支援等もそうですが、子ども達の健全な育成のために、学習の場、遊びの機会を得られるように連携・協力をしていってほしいです。
- ・少子高齢化の時代において、増加する高齢者対策、また、まちの財産である子ども達への教育対策等を、市が一体となって行っていかなければならないと思います。
- ・アメニティ・タウンにふさわしい地域の環境整備に関わる課題 ~町内会等と連携が必要~
- ・市内で展開される協働のまちづくりの事例紹介をすすめる。
- ・具体的なことは分かりませんが、大切なことは、市民と市が同じ情報を共有することと、地域の課題を協働で解決する仕組みを作ることだと感じました。
- ・公道(道路)は日常的に市民が使うものであり、秋の落葉処理や植樹木の除草は、市と市民が協働で行ってみるのもいい。

(支援策について)

- ・人材育成等、町内会活動などに限らず、あらゆる面で支援ができれば良いと思う。教育面では、文化、スポーツとも支援は見られない。協働=町内会でしょうか？
- ・協働の現場を手厚く、良くすることが大切。

(連携・ネットワークづくりについて)

- ・まちづくりといっても、今求められているもの、必要なことはハード面ではなくソフト面。人と

人の支え合いが必要。結局、向こう三軒両隣。支え合うと随分、地域もまちも変わっていくのかもと思います。

- ・市内では高齢者が多く、若い人は生活していくので精一杯の状況。なかなかまちづくりの部分まで手が回らないと思う。例えば、市内に限らず、もっと範囲を拡げて近隣市町村と近隣住民が連携して、元気がない空知の活性化に向けて取り組んでいくというのは難しいでしょうか？1つの市だけではなかなか厳しいと思います。札幌に人口が集中している今、空知をはじめ地方が元気にならないと。
- ・現場から対話の場を多く持つこと。
- ・コミュニティや各団体のネットワークづくり。
- ・まちづくりは人対人だと思う。市、市民の役割も必要だが、市職員も市民の一人として、地域活動やボランティア等に積極的に参加することが必要だと思う。その人と人とのつながりの中で、率直な市民の意見や要望が出てくると思う。
- ・協働したい事業などを話し合い、指針を基に、具体的に各団体とピックアップしていくことが必要と思います。

(条例について)

- ・「まちづくり基本条例」の制定が必要と思われる。(視野ではなく実施)

【その他】

- ・企業誘致を積極的に行ってほしい。雇用の確保を一人でも二人でも、地元で行えるよう努力してほしい。
- ・若者が地元で働くことができる職場の確保。
- ・高齢者ケアホームの建設。
- ・子供と高齢者との交流の仕組みづくり。
- ・ふれあいセンター健康仕組みづくり。
- ・市民の健康づくり、また、体力増進についても取り組みを展開してはどうか。